

東日本大震災レポ

復興へ向け、息の長い支援を



東日本大震災の発生から約5カ月。YMCAの元メンバーで、被災地で取材を続ける河北新報若柳支局の田村賢心さんによる現地レポートをお伝えします。

東日本大震災の大津波で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町で取材しています。市街地や漁村に数十メートルの波が押し寄せ、家や仕事場、漁船、車など生活のすべてを残骸に変えました。故郷が壊滅状態になった人々の心境を思うと胸が詰まります。それでも被災者は元の生活を取り戻そうと歩み始めました。復興への道のりは長く、様々な困難に直面する被災者に対して息の長い支援が求められます。

多くの被災者が避難所から仮設住宅へ移りました。

生活再建への一歩ですが、仮設住宅で取材すると「近所が知らない人ばかりで寂しい」との声が聞かれます。被災者の孤立をいかに防ぐかが課題となっています。阪神大震災では、仮設住宅などで誰にもみとられず「孤独死」した人が、地震後の10年間で約560人になったそうです。

こうした悲劇をなくそうとボランティアたちは動いています。約250戸の仮設住宅が並ぶ広場の近くに、無料カフェを開きました。被災者同士で交流を深める場とするのが狙いです。知人とカフェを訪ねた70代の女性は「仮設住宅は狭いので人を招きづらい。自由に会話ができる空間があるのはうれしい」と笑顔でした。被災者の心に寄り添う支援活動をこれからも取材し、継続と広がりを目指したいと思っています。

被災者に聞いた津波当時の避難行動を防災



情報として世間に紹介することも報道の使命と考えています。25戸に約110人が暮らす漁村では、9戸が流失しましたが、犠牲者はゼロでした。「地震が起きたら津波が来る。高台を走る国道に避難する」と集落内で申し合わせ、訓練を重ねていたそうです。「国道は避難場所のみでなく、堤防の役目も果たした」と住民は驚いていました。高台になっっている津波をせき止め、被害が集落全体に拡大するのを防いだそうです。同様の例は仙台市の高速道路でも見られました。訓練や安全な避難場所の設定など、災害に備えるための基本行為がいかに重要かを実感しています。どんなに大きな天災であつても、人の力で防げる悲しみもあります。それらの実例を新聞紙上でも伝えました。全国各地で防災の議論が深まるきっかけになってほしいと思います。

田村賢心さん 仙台市に本社を置く河北新報社の若柳支局に記者として勤務。取材中、仙台へ派遣中の熊本YMCA職員寺岡良男さんと出会う。ながみねファミリーYMCAの水泳教室(1987年)、学習教室(1990年)のほか、短期講習会にも参加するなど、熊本YMCAとのゆかりも深い。

ピアノとヴァイオリンの音色に祈りを込めて

復興支援チャリティコンサート

7月20日(水)、熊本市男女共同参画センターはあもにいで、東日本大震災復興支援チャリティコンサートが開催されました。熊本YMCA常議員でピアノリストの島優子さんと、ヴァイオリンリストの工藤真菜さん、緒方愛子さんが、モーツァルト「ピアノソナタイ長調K.331」トールコ行進曲付、「マスネ」タイスの瞑想曲、「リスト」ラ・カンパネラ「など名曲の数々を披露。島優子さんはバツハ「G線上のアリア」の演奏後、「東日本大震災における2万人



を超える死者・行方不明者への追悼の気持ちを込めて演奏しました」と述べ、コンサートへの思いを次のように語りました。
「東日本復興支援のためのチャリティコンサートというところで、いつもとは違う緊張感の中で今日を迎えました。被災された方々は深い悲しみや苦しみの中で、新しい一歩を踏み出そうとしています。その懸命な姿に心を打たれます。九州にいる私たちは、すぐに現地へ飛んで行って、直接支援の手を差し伸べることはできませんが、自分にできることがあれば何か役立ちたいという同じ思いだと信じています。音楽家として、心の復興に役立ちたいと思い、コンサートを開催することにしました。」
約300名の来場者がピアノとヴァイオリンの音色に耳を傾け、「ふるさと」の演奏とともに合唱しました。

REPORT

児童養護施設の子どもたちとふれあう交流デイキャンプ

開催日時/2011年7月9日(土)10時半~15時
開催場所/阿蘇YMCA

YMCAフィランソロピー協会主催の「第9回交流デイキャンプ」が行われました。6月に開催されたチャリティボウリング大会の益金をもとに、児童養護施設愛隣園とみどり園の子どもたち、先生ら33名を阿蘇YMCAに招待。会員企業の社員やボランティアを含め、70名が集まりました。

開会式で、ボウリング大会に引き続き参加したYMCA学院日本語科の于昆命さんが中国の伝統的な楽器である「二胡」の演奏を披露、続いてじゃんけんで負けた人が勝った人の後ろにつながついていく「じゃんけん列車」や、指名された人が「魚」「鳥」「木」のうちいずれかに該当する名称を答える「魚鳥木(ぎょちようもく)」などのゲームが行われ、大人も子どもも入り交じって楽しみました。

十分に身体を動かした後は、オリジナルのピザ作り挑戦。思い思いに具材が並んだピザはどれも個性的で、特製の窯で焼き上がったアツアツのピザを頬張りました。待ちに待ったバーベキューでは、阿蘇あか牛ブロックの丸焼きも堪能。食後は、社会貢献バンド「丘リーナ」によるオカリナを中心とした演奏に耳を傾け、心安らぐひと時を過ごしました。一転して、その後のすいか割りは大盛り上がりでした。阿蘇の自然を満喫し、日頃接する機会の少ない者同士が交流を深めることができました。

